

夢もっとひろがれ

4

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)



成人を祝う会 晴れやかに開催

もくじ

- ② 後援会長あいさつ
- ③ 「外部の支援者」いぶきを支える人たち
- ④ 「シリーズ」私と息子といぶきと
- ⑤ 百々染森の恵み大賞優秀賞受賞
- ⑥ いぶき成人を祝う会
- ⑦ 第二いぶき成人を祝う会
- ⑧ 仲間のすがた〜コミュニケーション〜
- ⑩ 四季折々の記
- ⑫ 新人職員紹介
- ⑬ いぶきができるまでその九
- ⑭ 法人からのお知らせ
- ⑮ 情報掲示板
- ⑯

不安定な天候が続いていますが、花が咲き、鳥が鳴き始め、すっかり春ですね。4月は新しい始まりのとき。いぶきには今年度も多くの仲間たちが入ってきました。初々しい姿に、先輩になる仲間たちの顔もキリッと引き締まります。仲間も職員も全員が新しい気持ちで出発の春です。

2015
Spring
Vol.182

後援会長あいさつ

経済第一主義が

もたらす陥穽

―福祉はどのように位置付けられるのか?―

アベノミクスという用語はしつかり定着した感がある。3本の矢を放ち、株高・円安・高利潤

をもたらし、産業界にはすこぶる評判がよい。所得格差の広がりを懸念する広範囲の国民の声がかき消されそうなどである。集団的自衛権の行使容認、沖縄基地移転、憲法改正といった個別重要テーマでは低い評価しか得られないのに、総選挙において自民党が大勝できた要因をあげるとすれば、上記の経済第一主義が功を

奏したということに尽きるだろう。

ここではアベノミクスの政策的主張そのものを詳しく吟味する余裕はないので、福祉政策とのかかわりを簡潔に述べてみたい。

第1に福祉はアベノミクスの恩恵に浴す機会に乏しい。株高・高利益が福祉と両立しうるのは累進税制等を通じ所得再分配がなされるケースしか考えられないが、現実には逆コースに向かっている。

第2に社会的ニーズがきわめて高い福祉・介護等の分野は、数年単位の景気政策ではどうしても後回しにされてし

まう。労働集約的・低生産性であるがゆえに即効性が期待できないからである。

企業の国際競争力を維持していかないと、雇用も福祉もあり得ないという主張はよく聞か、投資チャンスを経界的スケールで探っている大企業は内部留保をため込み備えに怠りない。自由競争を自己責任で乗り切るスタイルが称賛される世界には他者との支えあいというような福祉契機が入り込む余地はないのである。「そのうちよくなるかもー」という淡い望みは捨て、社会ニーズに応えられる政策転換を迫る運動が必要になっている。

高橋 弦

いぶき福祉会 後援会総会の

お知らせ

平素は、いぶき福祉会の活動にご理解とご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。さて、平成27年度後援会総会を左記の通り開催いたします。

ご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ともご出席くださいますようお願い申し上げます。

日時

6月28日(日)
午前10時～12時

場所

北部コミュニティセンター 大集会室
岐阜市八代1丁目11―13



シリーズ いぶきを支える人たち

社会人になった年から、社会へ何かお返しできることとして心ばかりの寄付をしています。その中で「いぶき」と出会い17、18年になりますが、「夢もつとひろがれ」で利用者の様子、施設の活動内容や取り巻かれている状況等を学び、考える機会をいただいています。

少し異なる視点かもしれませんが、障がい者の方々の就業状況をみていきたいと思っています。昨年末に公表された厚生労働省の平成25年度障害者雇用実態調査の結果によれば、従業員規模5人以上の事業所に雇用されている障害者数は63万1,000人で、前回調査より18万3,000

の増加(平成20年度44万8,000人)、内訳は、身体障害者が43万3,000人(同34万6,000人)、知的障害者が15万人(同7万3,000人)、精神障害者が4万8,000人(同2万9,000人)です。同年4月に障害者雇用率制度における法定雇用率(従業員数が一定以上の民間企業や国、地方自治体などに義務づけられた障害者雇用の最低比率)が引き上げられたこともあり、「障害者の雇用は着実に進展。特に、知的障害者と精神障害者については週20時間以上30時間未満の雇用者数の伸びが堅調である」とされています。

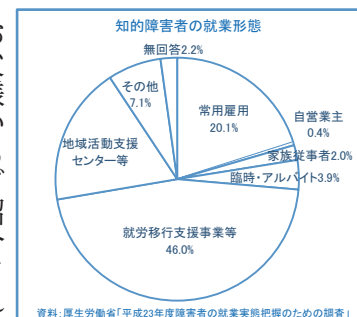
ただ同時に、知的障がい者の方々にとっては雇用以外の福祉的就労の環境が重要です。厚生労働省の「障害者の就業実態把握のための調査」(平成23年度)によれば、「知的障害者」の就業状況は「就業者」は51.9%、「不就業者」は47.0%であり、年齢階級別にみると、「就業者」の比率は、20～24歳と25～29歳で73.0%と69.5%と高いものの、30～34歳が62.8%、35～39歳が57.2%、40～44歳が50.9%、45～49歳が49.1%、50～54歳が43.2%、55～59歳が29.8%、60～64歳が27.5%と年齢層が高くなるに従って「就業者」の割合が低下していきます。また、就業形態は、「常用雇用」が

20.1%に対し、「就労移行支援事業、就労継続支援B型、授産施設等」が46.0%、「地域活動支援センター、地域の作業所」が18.4%となっており、障害程度別にみると、重度では就労移行支援事業や地域活動支援センター等に80%以上が就業しており、「不就業者」が希望する就業形態としても高いニーズがあります。すなわち、「希望するすべての障がい者に働く場を保障し、働くことを通して発達を保障する」をめざして設立されたいぶきのような、地域の中で働ける場づくり、生活できる環境づくりを進めていくことが求められています。

ある年の初詣で偶然にもいぶきの方々と出会わせることができました。お父様からご紹介されたお嬢さんがとても愛らしく、多くのご苦労を重ねられる中でもきつと沢山の愛情を注がれている様子が伺われ、微笑ましい気持ちになりました。こうした利用者の方々がご家族とスタッフの皆様と一緒に地域社会の中で歩まれていかれることを心から応援しています。そして、心ばかりの支援ですが、これからも続けていきたいと思っています。

岐阜大学
地域科学部教員

三井 栄



シリーズ

私と息子といぶきと

静岡県の富士宮の国立療養所に赴任している時、次男俊輔は生まれました。

今年で32歳になりました。1歳過ぎぐらいに障害に気づきました。



“知的障害”とはつきりした時、すこしでも良い環境で教育をしたいと思い、3歳の時、岐阜に戻りました。その後“恵

光学園”岐阜市立養護学校”でお世話になりました。

現在、日中は“第二いぶき”に通い、月曜日から金曜日は“バストラルいぶき”に入所しています。振り返って見ると、俊輔のためと私なりにいろいろがんばってきたつもりです。俊輔本人は身辺自立もままならず私の力は、あまり効果があつたとはいえません。

俊輔が11歳の時、私は請われて再度富士宮に赴任しました。およそ20年間単身で過ごし、2年前に定年退官しました。この間俊輔のこと、家庭のことはおよそ妻に任せ



きりでした。放っていた妻には思われていました。妻は、私を評するに「俊輔に対して冷静すぎる。医者の目で見ている。もつと盲目的に愛情を注げ!」「スキシップが足りない!」「自分の患者さんの方が、俊輔より大事だと思っている」「医者なら障害の分野にも関われ」「医者の仕事にかまけて、家庭を顧みない」等々恨みつらつら 罵詈雑言の嵐です。他にも俊輔に向かって

「この人が俊輔の本当のお父さんですよ。かわいがつてもらいなさい」と言ったりします。とっても恐く、本当はとっても優しい妻には、全く反論できません。

障害の分野にも関われ!といわれても、実際、知的障害の診療は難しい。知的障害といってもいろいろな病気があり、その原因も分かっている。重心病棟を診ている専門家の先生を多く知っていますが、手探り状

態でやっているのが現状です。外科・呼吸器の自分からすると、診療の仕方が全く違う科です。とても新しい診療を始めすることはできません。今は週に2回、近くの病院で非常勤の勤務をしています。今度は時間はたっぷりあります。これからはもつと俊輔に関わりたいと思っています。

“いぶき”ではありのままの俊輔を受け入れていただき、すくすくと育ててきました。俊輔はたくさんの方にお世話になり、助けられ、いつも機嫌良くニコニコしています。これからも笑顔を武器に楽しく生きていつて欲しいと思います。わが家の家族はまだまだ発展途上です。

石原俊輔 父

石原 重樹

清流の国・森の恵み大賞 百々染が 森の恵み部門 「優秀賞」を受賞！

「清流の国・森の恵み大賞」は、平成27年秋季に開催される第39回全国育樹祭の関連事業として、品質の高い家具などの木工品や、枝葉や木の実などの「森の恵み」を活用した知恵やアイデアを広く募集し、木の国・山の国である岐阜県が表彰することで、森林を次世代に継承する機運の向上や、埋もれていた「森の恵み」を全国に発信するために行われる事業です。

家具や文房具などが対象の「木工品部門」、



「森の恵み部門」の2部門に全国から313点の応募がありました。百々染は「森の恵み部門」で『優秀賞』を受賞しました！

【審査員講評】

“いろんな人と人が、今日もたくさんの色で

つながりますように。”
この作品にはそんな願いが込められている。障がいを持った人たちが、原料となる木の枝や草花を自ら山や公園に取りに行き、じつくりと自然の色を煮出して作品を染め上げる。決して焦らずゆっくり自然と対峙したからこそ生まれる類まれな色彩である。ストールを身に付けた時、誰もがきつと優しい気持ちになれる、まさに森と心の恵みを感じることが出来る作品である。

この賞の表彰式が去る2月24日岐阜県庁で開かれ、染め工房の代表として川島さん、吉迫さん、前川さんが出席しました。川島さんが古田県知事から岐阜



県産ひのきで作られた賞状を直接受け取り、緊張しつつも誇らしげな顔を見せてくれました。百々染を含めた受賞作品は3月11日



16日、銀座三越（東京都）で展示され、多くのお客さままでにぎわいました。

第二いぶき

初瀬尾 久美子



いぶき 仲間のすがた 成人を祝う会

成人を迎えるということとは、何を意味するのでしょうか？お酒が飲めること、選挙権を持つこと・・・様々な楽しいことに加えて我慢しなければならぬことが増えますが、権利も与えられます。そういった一人の大人としての様々な自由と責任の門出をお祝いするのが成人式。今回、いぶきで成人を迎える仲間にとっても成人という節目は大切な瞬間となったようでした。

1月16日(金)きざしの加藤誉章さん、斉田怜さん、サテライト



の桑原拓也さん、長屋利信さんが成人を迎え、市橋コミュニケーションセンターで成人を祝う会が

行われました。会場に集まる温かな気持ちで成人を迎えました。

前日から成人を迎える仲間たちは、いぶきで、事前に練習を重ねていました。新成人の誓いをみんなの前で喋らなければならない

場面があるためです。みんなとの練習がスタートしました。初めはたどたどしく、「お父さん、お母さんありがとうございます。」「成人になったら、仕事を頑張りたいです。」「大人になったらテニスをまたしたいです。」緊張しながらも、一生懸命に練習している姿があり上手に伝えられる様子がありました。また、成人の決意をビデオ撮影する時も笑顔を見せながらも、キリッとした表情で、今の仕事の楽しさやこれからがんばりたいことを嬉しそうに伝えてくれる姿がありました。

仲間の思いをいつもの作業で聞くことはあまりないので、今の仕事への思いや、いぶきで

したいことなどを聞くことのできた貴重な場面になりました。

式の当日、胸に母からのコサージュをつけてもらう場面がありました。成人を迎え、母からも伝えたい思いが募る場面でした。



式に参加する仲間たちも温かく見守っている中、仲間代表の樋口さんから成人を迎える仲間メッセージがありました。社会に飛び立つ仲間、そして

一人の仕事仲間、一人の母として、仲間と保護者に向けたメッセージでした。



恩師もお祝いに駆けつけていただき、昔の様子を交えながら成人を迎える仲間の素敵な姿を紹介してくださっていました。学校で新しいことにチャレンジしている姿と作業時間の真剣な表情は同じのようで、昔から変わっていないそうです。小さい頃から大好きな電車や好きなものに夢中だった

た話もありました。お世話になった先生を親しみを込めた呼び名で呼び、とても仲良く過ごしていたこともうかがえました。

4人が大人になっても変わらず笑顔あふれ生活できている姿に、様々な方々の力添えがあることを感じられる素敵な場面でした。



そして、仲間の決意発表の時間です。いつもと違う状況にすこし緊張しながらも、斉田さ

んは「ブルーレイが欲しい」と給料を貯めて目標の家電を買うことを宣言しました。



加藤さんは、すこし口ごもりながらも「テニスをしたい。自転車にのりたい。」と部活動での思い出をまた実現させたいと語ってくれました。桑原さんは仕事の決意をみんなの前で発表。長屋さんもいつもの口調で少し緊張と、恥ずかしさもありながら今の仕事の楽しさを伝えてくれました。



そして、仲間から花束と記念品を受け取った成人の仲間は、みんなの拍手を受け見送られました。成人を迎えた仲間たちにとって大きなステージであり、緊張もあったと思いますが、大人へのステージをひとつ登っていったことでしょう。いつまでもこの時感じた気持ちと、多くの人が成人を迎えるための支えとなってきたことを忘れないでほしいと思います。いつま

笑顔を忘れない姿が周りのみんなにも元氣や勇気を届けています。大変ことや辛いことがあっても、成人を迎えた仲間のみんなにとって多くの支えが力になっていくと思います。



これからもいぶきで楽しく過ごしていきましょう。

いぶき 加藤亮太

第二いぶき 仲間のすがた 成人を祝う会

今年度、第二いぶきでは大野義広さん、木下慎一郎さん、土本貴斗さん、藤井隆之さんの4名が成人を迎えられました。仲間や職員も増えたため、今年から第二いぶきで行うことが手狭となり、美濃観光ホテルにて成人を祝う会を開催しました。残念ながらこの日に体調不良により出席できなかった大野さんは後日、第二いぶきにてお祝いをしました。



■木下 慎一郎さん
式の間はずっと顔を上げてお祝いの言葉を話す恩師、親御さん、生い立ちのVTRを真剣な表情で見つめ、時おり笑顔がこぼれていました。新成人の決意でマイ

クを向けられると、きりつとした表情となり、新成人としての熱い思いが伝わってきました。



■職員からのメッセージ
入所したときは緊張で不安そうな表情でしたが、仲間たちと共に、仕事や活動を通して新しい関係が広がり、また少しずつ深まっていくなかで、笑顔が出てくるようになってきました。これからも素敵な笑顔であふれる日々を作っていきましょう。

お母さんと



恩師の先生たちもお祝いに駆けつけてくれました。



■土本 貴斗さん
みんなから祝福されるといいう嬉しさで朝か

ら自分の気持ちを伝えきれないような様子でした。恩師である今井先生を見つけるといろいろ話しかけ、久しぶりに会えた喜びがあふれていました。



くす玉割りの時には、割れた瞬間にとびつきの笑顔がみられました。



恒例のくす玉!!



■藤井隆之さん
成人を迎えられると
いうことでおしゃれな髪
形、素敵なスーツ姿で出
席してくれました。



お母さんに感謝の気持
ちを込めて花束のプレ
ゼント！

■職員からのメッセージ
入所したときは、第二
いぶきや人に慣れず部
屋を出て行くこともあ
りましたが、今ではいろ



くす玉を割ってお祝いメ
ッセージの垂れ幕が出て
くると、ニコッと満面の
笑みが見られました。久
しぶりに会えた恩師を
交えた家族との食事の
時間にはとても嬉しそ
うな表情でいっしょに食
事をしていました。

大野さんはスーツを
着て緊張の面持ちでし
たが、学生時代からの
親友・木下さんも一緒の
参加で心強かったよう

■大野 義広さん
美濃観光ホテルでの
成人を祝う会に参加す
ることができなかった
大野さんのお祝い会を
後日、第二いぶきのこら
ぼ(大野さんが所属す
るグループ)で開催しま
した。音楽療法でお世
話になっている粥川先
生の演出もあり、とても
素敵な心あたたまる会
となりました。

どりの部屋が自分の居
場所として安心して過
ごせています。みんなと
の時間を大切にして、こ
れからもいろいろりの一
員として笑顔があふれ
る楽しい時間を過ごし
ていきましょう。



■職員からのメッセージ
入所してすぐは、大き
な目でまわりの人たち
をみていましたが、だん

でした。ビールを片手に
乾杯をすると、大人の仲
間入りを実感して笑顔
が出ていました。



だんと慣れてくると、足
を動かしたりおなかを
たたいたりしてリズム
をとり、キラキラとした
表情が出てくるようにな
りました。これからも
毎日その素敵な笑顔を見
せてくださいね。

パストラル 仲間のすがた

仲間の日常生活

今回はパストラルいぶきの中の女性棟「なでしこ」の日常から、仲間同士の思いやりについて、藤田さんの日常から思いをはせてみたいと思います。

夕方藤田さんが玄関チャイムを鳴らし、第二いぶきで一日の仕事を終えた仲間が「ただいまー！」と帰宅する時間には、また、ショートステイを利用する仲間が少し緊張した様子でなでしこに入ってきます。そんな不安を抱えている仲間に「一緒に泊まろうね！おつたんで大丈夫やよー」「よく来たね！元気やった？」とい



いつでも優しく、時にはにぎやかに語り掛けてほぐそうとしてくれるのが藤田さん流の思いやりであり、歓迎方法のようです。そんな藤田さんは誰かに何かをもらいたい、喜んであげたい、安心させてあげたい、という思い

が強いように思います。が、一方ではてんかん発作の影響で体がしんどかったり、発作への不安からイライラして強い口調になったり、時にはそんな自分に悲しくなったりと大きな気持ちの揺らぎを抱えています。

パストラルに入居した頃には発作への不安や体のしんどさから、『家族に会いたい』『お母さんに会いたい』といった思いを持ちながら暮らし、「だつて帰りたいもん！！」と強い思いをぶつける事があったそうです。そして三年目に私がなでしこで一緒に過ごすようになってからも、時々そんな思いがあふれることがありました。そんなときには「帰りたい

よね、帰りたいのに帰してあげられなくてごめんね」「不安でも一緒にいるから大丈夫だよ。辛い時には助けるね」、と思いを受け止めつつ、少しでも安心できるように話し、帰してあげられないことや、まだ安心できる居場所になりにくい場所から帰らせてあげられないこと、藤田さん自身が納得できる説明ができないこと等が申し訳なくて「ごめんね」と謝り、「将来のために一緒にいよう。一緒にいるから大丈夫だよ」と説明することもありました。「将来のため」についてどこまでわかってもらえたのかはわかりませんが、私のつたない説明でも「そっかあ、じゃあ、一緒に寝よう」と

受け入れてくれる藤田さん、そして藤田さんにとっては受けられるしかない現実申し訳なさを感じることがありながら一緒に過ごしてきました。



そんなやりとりや生活を重ね、入居から四年目を迎えた生活の中では、『今すぐに帰りたい！』という思いが『今日はおつてもいいかな』や、『週末はお母さんのために帰ってあげようかな』という思いに変



わりつつあるようで、実家でお母さんに「今日は帰って来たっただ！」と話したり、パストラルでみんなに「明日はうちに帰るで遊びに来やあ！何飲みたい？コーヒー？ジュース？」と楽しげに遊びに誘ってくれることもあり、一緒に暮らしていく毎日のなかで、私たちと『もう少し一緒にいてもいいかな』と思ってくれているような気がして、うれしく感じています。

そんな、家族やみんなの事が大好きで様々な葛藤を抱えた藤田さんだからこそ、ショートステイの仲間の不安や帰りたい思いを強く感じられるのではないかと。『私も不安だったから、不安な気持ちがよくわかる！』、『辛そうだし、力になりたいな』、そう感じたであろう時に口をついて出てくるのは決まって、「（一緒に）おるでいいよ！」、「おるよ！おる！！」という言葉で、それは自分が辛かった時に気持ちを和らげ、支えた言葉なのではないかと思うのです。

不安な様子の仲間に『私も一緒にいても良かったら大丈夫だった、だから今日は私が一緒にいてあげるよ！』、と

自分の辛さと葛藤する毎日の中でも相手に自分の姿を重ねて励ましているように感じ、その懐の深さに本当に頭が下がる思いになります。

そして、そんな優しい姿は藤田さんだけではなく、他の仲間も同じです。

いぶきで仕事をがんばって帰ってきた原さんも、藤田さんが辛い時には自分の気持ちを抑えてお風呂の順番を快くゆずってくれるのですが、その時の心配と不安が入り混じったような少し固い表情からも同じような優しさを感じます。

また、井川さんも松原さんが落ち着けずにいることに気づくと、テレビからふと目を離



して「大丈夫？」というように顔を見に行くことがあります。につこり笑いながら肩に手をかけて瞳をじつくりとのぞき込む井川さんと、井川さんを見つめて「ほう」とため息交じりで思いを伝えている松原さん。そんな松原さんにあえて背中ではらく寄り添って、ちらりちらりと様子を気にしている井川さん。日常のそんな姿からもあ

たたかな気持ちのやりとりを感じます。

時々誰かが実家に帰っていないことに気づくと「今日はどうしたの？」と心配し、「病院やとー！でも、明日は来るつてー！」とまた明日には会えることに安堵する。当たり前のようにお互いを思い合っている日常があります。

お互いがもたれ合うというよりは、響き合うような女性ならではの関係の中で、時にはぶつかることもありですが、これからも当たり前のようには手を取り合い、思いを寄せあひながら過ごせる日常を、大切に過ごしていきたいと思っています。

パストラルいぶき

星場 真紀

連載 四季折々の記

「明治初期の日本と現代社会と、どちらが国民の意見を大事にしているか」

■三寒四温

季節の変わり目の時期に、寒い日が三日間続くと、その後に比較的暖かい日が四日間続くという意味でつかわれる語句である。特に冬から春への気候の変化に使われる「季語」でもある。

今年も「シベリア高気圧」の寒気団が周期的に日本を覆い、気温の日較差が大きくなってきた。この振り子の振幅が次第に小さくなり、春が訪れるというわけである。

■五カ条の御誓文と建白書

「独裁主義・絶対主義・国粋主義・軍国主義」と対峙する価値観に「民主主義・立憲主義・平和主義」が挙げられる。前者は一部の指導的立場にある人たちが、自民族の優位を説き、国益を守ることを一義として国民を導き、国としての秩序と独立と繁栄を軍隊によって保つ考え方である。一方後者は、国民の欲する施策・政治を国民によって選ばれた代議員が法律によって策定し、一部の思想の暴走を防ぎ、話し合い、または法律の定めるところによって雌雄を決するという考え方である。

世界的にみると、この2つの「主義」が、交互にまさに振子のように

交代してきた。極端に一方的に振れると、揺り戻しが大きくなり「革命」的に真逆の政治形態が現れることがあった。

日本においては「士農工商」の身分制度による「武士政権」から「大政奉還」による政権交代が行われ、その翌年に明治天皇により現在の国会における「施政方針演説」といえる「5ヶ条の御誓文」が、新政権の基本方針として示された。

明治という時代は富国強兵の掛け声のもと「国粋・軍国主義」が強力に推し進められた時代であるが、5ヶ条の御誓文の、第一条で驚くべき条文が用いられた。原文は『広く会議ヲ興シ、万機公論ニ決スベシ』現

代文に訳すと、『広く会議を開いて、すべての政治は、世論に従い決定すべきである』となる。

さらに『建白』という制度も設けられた。これはすべての国民が明治政府、いかなれば明治天皇に対して意見を述べることができる制度である。現在における「公聴会」「パブリックコメント」である。有名なものは「民選議会設立建白書」で、その後板垣退助の「自由民権運動」の緒となった。

■明治の精神に学ぶ

明治時代冒頭で示された右記のような制度は、現代社会にも存在するが、「施政方針演説」は官僚の作成した文章の棒読みであり「公聴会」「パブリックコメント」等は形骸化し、その

後国民の意見が法律に反映された例を知らない。

明治という時代は、国民の声を吸い上げることに關して、まず形を作りそれをきちんと機能させることを大切にしていた。現在、形や手続きは残っているが、まったく機能していない現状であると思うし、変えるという気概がない。歴史の揺り戻しによって、明治初期のような風通しのよい社会となつてほしいものである。

文責

いぶき はやしもりお

1984年の4月のいぶき共同作業所開所の段階では、自治体(岐阜市)から正式には認められてない(委託金配分を受けてない)まま、資金は廃品回収等々で細々と貯めたものしかありませんでした。それでも数ヶ月をかけて、今では考えられないような低賃金でしたが二人の指導員(二人は横幕)と中古の送迎車購入により体制を整え、H君と二人のT君にもう二人の在宅者が加わり5人の利用者によるいぶき共同作業所を創っていったのです。6月には5人体制となつたいぶき共同作業所が、岐阜市の条例要綱に適合する市の認める小規模授産所(国からすれば無認可ですが)となり、10月から小額ながらも委託金配分を受け

ることになったのでした。どんな事情のどんな重度の障害をもつ仲間も通える作業所を、という今もいぶきが最も大切している理念は、このようにいぶきの運動の最初からあったのです。

そしてもう一つ、ふれておきたいことがあります

社会福祉法人としての いぶきができるまでを振り返って

したように1982年に小規模作業所作りを目指して地域の公共施設(公民館など)を借りて日曜作業所を開所したのですが、それは卒業後の居場所作りであると同時に、少しでも在学中の障害者にいぶきを知ってもらい、既存の施設の在り様を超える共同作業所・小規模

授産所を目指すいぶきの活動・運動の拡大を狙ったものでもありました。しかしそうした当時の活動・運動がまた、約30年前の障害者の受け入れに対する冷たさを感じざる得ない状況と一体であったことを、古い文章を紐解きながら改めて思い出し、かなり鮮明な記憶が

害者の立ち居振る舞いを理由に継続した安定的な公共施設利用は無理だと言われたりなど、今では考えられない理不尽な理由によって、日曜学校の場所の確保自体にかなりの苦勞をしたこともしばしばあったのです。しかしそんな中でも、1984年に最初の共

が甦つてもきました。日曜作業所として使おうとした幾つもの公共施設に、障害者が利用するというだけで施設利用を断られたり、断られないまでも使用後にチョットした器具などの配置にズレがあったことを咎められてかなり嫌な顔をされたり、健常者とは少し異なる障

同作業所の場合を快く無償で貸して下さった福田さんのような方もおられましたし、1987年には、助けて下さった市議や県議の方の大きな力添えがあったからこそこのことはありましたが、岐阜市自身が人数も増えた小規模授産所としてのいぶき共同作業所に、島

支所の跡地をやはり無償で提供してくださるなど、いぶきの活動・運動に対するありがたい支援の動きもあつたのです。

まだまだ十分とは言えないながらも、今では作業所・グループホーム・デイサービスなど障害者の施設・制度もある程度は充実してきています。そうしたことは、各地の先人たちが声を上げ続け運動してきたこととこれらに学びながら施設作りを進めてきたいぶきの活動・運動によって実現してきたと思います。私はこうしたいぶきの歩んできた歴史に学びながら、同時に今もまた新たないぶきの歴史を築きつつあるのだ、ということを自覚しながら皆さんと頑張っていきたいと思っています。

いぶき 横幕 嘉行

今年度より、いぶき福祉会の組織の改編と管理部門の異動がありましたので、ご報告いたします。

本部事務局を新設しました。

■ 本部事務局

副理事長 林 守男

(前・いぶき所長)

専務理事 北川 雄史

(前・第二いぶき所長)

■ 西部事業部

事業部長・施設長

池田 光巳

(前・いぶき事務長)

西部事業部には以下の施設が所属します。

◎いぶきゆめひろ共同

作業所(就労継続A型)

◎いぶき(生活介護)

◎きざはし(生活介護)

◎サテライトいぶき

(生活介護)

◎ねこのて(居宅介護)

◎しまホーム

◎さぎやまホーム

(共同生活援助)

■ 地域支援事業部

事業部長

瀬瀬 栄司

(前・第二いぶき副所長)

地域支援部には以下の施設が所属します。

◎いぶき相談支援

◎たーぶる

(放課後等デイサービス)

■ 北部事業部

事業部長・施設長

森 洋三

(前・いぶき副所長)

北部事業部には以下の施設が所属します。

◎第二いぶき

(生活介護)

◎第二いぶきB

(生活介護)

◎パストラルいぶき

(共同生活援助

・短期入所)

いぶきまつり実行委員会報告

第24回いぶきふれあ

いまつりが開催されます。今年は統一地方選挙のため、5月に開催します。

◆ 概要

◎日時 5月24日(日)

10時～14時

◎テーマ『この街で心づかないで 夢よひろがれ』

◎場所 島小学校校庭・

体育館・島公民館

◎後援 岐阜市・岐阜市

教育委員会・岐阜県社

会福祉協議会・岐阜市

社会福祉協議会

◆ ステージについて

ステージは前半は音楽を中心に後半は踊りなど動きがあるものの中に以下の団体の皆様にご出演をお願いしました。

《風花蓮、ジョインアス、いぶきの仲間》

◆ 会場企画について

会場では模擬店のほか、三角くじや「十年後のわたし」をみんなで共有する「いぶきのき」などの楽しい企画をたくさん用意しています。

模擬店では毎年ご出店いただいていた祭りを盛り上げていただいている以下の皆様にご出店をしていただきます。

《コープぎふ・あおぞらの家、あしたの会、ポツプコーン、華陽診療所、金華緑采、なじみのふるさと、地域活動支援アイサポ、いぶきの仲間》

その他好評の以下の模擬店も出店予定です。《焼きそば、みたらし団

子、カレーライス、うどん、パン、和菓子、おにぎり、ハッシュドポテト、フランクフルト、焼きいか、陶器、不用品バザー、抹茶など》

現在、運営を手伝っていたくボランティアと不用品バザーの商品(未使用の洗剤・サラップ・タオルなどの日用雑貨や陶器など)を募集しております。皆様のご協力どうぞよろしく願います。

ます。

問い合わせは左記事務局までお願いいたします。

いぶきふれあいまつり

実行委員会事務局

(いぶき内)

058-233-7445



後援会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

〔振込先〕

郵便振替 00840-3-91146
加入者名 いぶき福祉会後援会

〔年会費〕 一般会員 一口 2,000円
団体会員 一口 10,000円

〔お問い合わせ〕 いぶき福祉会後援会事務局

T E L 058-233-7445

F A X 058-232-9140

E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp

(タイトルに後援会員と入れて下さい)

後援会への入会はJR岐阜駅の
「ねこの約束」でも手続きしていただけます



お届けする今号で、誌面を一新してから9号目となります。この「夢よもつとひろがれ」は、社会福祉法人いぶきを支えて下さっている多くの方々に、そうした方々の支援の様子や障がいをもつ仲間に関わるいぶきでの様々な取り組み・日常をお伝えするものです。が同時に編集に携わるものとしては、日々いぶきに直接に関わつてはいるけれども、大きくなつたいぶき全体のこと全てが直ぐには判らない親さんや職員が、相互にお互いの様子や仕事ぶりを（もちろん仲間の様子も）伝え合うものだとも考えています。そうした点からもこの小冊子を見て頂ければ、と思っています。ご意見・ご批判をぜひ、お寄せ下さいませ。

編集委員長 竹内章郎